



# 農協だより

Vol.68

URL: <http://www.ja-aki.jp>

平成 24 年 4 月

## 瀬野川農事研究会総会

3月22日に瀬野福祉センターで瀬野川農事研究会総会が行われました。

総会に先立ち、料理教室「手しごと厨」の下田美紀和先生により「今料理人から消費者、農家に希望する事」として記念講演が行われ、農家の方は野菜を栽培されるだけでなく、自分で食べてみておいしかった料理方法などをポップなどにしてPRする事で消費者がより購入してみたいくなるなど参考になる内容でした。総会では展示圃の結果や活動状況の報告、来年度の事業計画について議事され無事承認されました。

JA安芸代表理事組合長より水菜の表彰が行われました。



## 育苗センターでは・・・



### 温湯消毒

また、この時期がやってきました。今年も3月21日から4月20日までの間で8日実施しています。温湯消毒は種粒を60℃のお湯に10分間浸け多くの病害虫を防除する方法です。農薬を使わないので環境に優しく食の安全・安心につながる技術で、廃液の処理による環境問題や時間の短縮、費用面など多くの利点があり取り入れております。この地域では10年程前から先駆けてこの防除法を取り入れており、のべ1000件以上の農家が実施しております。毎年利用されている農家は費用が安く管理がしやすいと喜んでいただいております。



## 春の農作業安全月間

平成24年3月16日に、JAビルにおいて「JAグループ広島第2回農作業安全推進委員会がありました。JAグループ広島をあげて平成22年度から平成24年度末までの3か年において「農作業事故撲滅3か年運動」に取り組んでおり、平成22年の農作業事故は736件であり、平成20年に比べて17%減となっています。

広島県のまとめた「農作業事故の発生状況(調査対象期間平成22年1月~12月)」によると、4月から9月までの6か月間は毎月70件以上の農作業事故が発生しています。JA安芸では、平成24年4月1日~5月31日まで「春の農作業安全月間」として農作業事故防止の安全啓発活動を行います。

### 注意のポイント

#### 草刈機

常に安全な姿勢を保つこと・スパイクのついた安全靴を履く・急斜面では階段を設置する・危ないところは手刈りする・石や空き缶の除去をする・つたや木の枝などの除去をする・防護の徹底をする・他人は近づけない。

#### 耕耘機

後ろに何かないか確認してバックする・転落、転倒、積み降ろし時に注意する。

#### 田植え機

滑りやすいので足元に注意して乗る・爪の点検は必ずエンジンを止めて行う・昇降路はバックで行う。

#### トラクター

ブレーキの連結ロックを圃場を出る前に行う。

#### 高齢者

認知・判断・操作が鈍くなっている・血液サラサラ薬を飲んでいると出血しやすい・ムリをしない・61歳以上による事故は全体の80%以上になっている。

## 広島市有害鳥獣駆除対策

平成23年度は広島市有害鳥獣防除用施設設置事業で安芸区の農家4軒より防護柵(メッシュ・トタン・網)506mの設置申し込みがあり手続きをいたしました。

3月19日平成24年度広島市有害鳥獣駆除対策協議会が行われました。平成23年度有害鳥獣駆除実績(1月末)は、班員数178名、出動回数1625回、出動延人数4990人(安芸区では、班員数25名、出動回数419回、出動延人数1279人・駆除鳥獣は、イノシシ356頭、シカ57頭、タヌキ20頭等)でした。安芸区では、平成24年度鳥獣駆除実施計画をイノシシ370頭、シカ100頭、サル40頭、ヌートリア60頭、タヌキ60頭等決めました。

広島県では、有害鳥獣(イノシシ)の被害額が全国1位と多く大きな問題になっています。市・町では、電気柵、防護柵等の補助事業がありますので問い合わせてみてください。

### 育苗

育苗センターでは4月16日からの野菜苗の配送に向け長ナス・中長ナス・きゅうり・ピーマンなど良質な苗を育苗しております。管内の栽培に適した時期に合わせて播種を行い、通常の9cmのポットへ鉢上げをしております。購入をされた苗は12cmのポットに植替え外気に慣らしゴールデンウィーク頃に畑への定植が適しております。



# 4月営農メモ

## 水稲

### 稲作育苗ポイント

**塩水選** 塩水選で不良籾を除くことで、生育が揃い、病害虫の発生を抑えることが出来ます。必ず行ってください。

※購入種子も同様に（風選のみ）

- ・種籾についた塩を流水で充分洗い、水切りをしてください。
- ・塩水選終了後、すぐに種子消毒をしない場合は十分に（水分15%）乾かしてください。

**種子消毒** これによって、いもち病、ばか苗病、籾枯細菌病及びイネシンガレセンチュウを防除します。

- 【薬液消毒】
- ・消毒は浸漬の前に行います。
  - ・薬液の温度は、効果が落ちるため10℃以下にならないようにしてください。
  - ・薬液のとりの悪い布袋などの使用は避けてください。
  - ・種子消毒後の水洗いはしないでください。
  - ・はじめ薬液が付くよう消毒ネットをよくゆすり、気泡を取るようにつけてください。

【風乾】（種子消毒が済んで効果を高めるために）

- ・薬液から引き上げた種籾を一昼夜日陰において、薬液を固着させます。

【温湯消毒】 ※なるべく自家採取した籾は避けてください。

- ・60℃のお湯に10分漬ける事によって薬液消毒と同等の効果があり、廃液も出ず環境にやさしい防除方法として注目されています。
- ・塩水選終了後ただちに実施します。1時間以後は時間経過とともに発芽率が低下しますので事前に塩水選を済まされる場合は充分乾燥（15%）させてください。
- ・温湯消毒後すぐに浸漬しない場合は、日陰でネットのまま吊るすか、清潔なブルーシート（むしろ等は使用しない）に掛け十分に乾燥（水分15%）させてから清潔な保管してください。
- ・温湯消毒した種籾は農薬による消毒と異なり、消毒後の感染に無防備です。殺菌後は絶対に病原菌等（無処理の籾）に接触しない様に注意してください。

**浸漬** 浸漬時間の目安は、積算温度100℃です。（10～15℃の水に7～10日の浸漬）

【方法】 ①種籾10kgに対して、水40ℓ必要です。（酸化防止）

②種籾を網袋に少なめ（消毒ネットに4kg以内）に入れ水につけてください。

③最初の3日は水の交換はせず、4～6日おき、7日以降は毎日交換してください。

【注意点】 ①発芽しにくい品種（コシヒカリ、ヒノヒカリ、あきろまんなど）は2日程度長めに浸漬してください。②水温が低い状態（10℃以下）で浸漬時間が長くなりすぎると、細菌が発生しやすくなります。③温湯消毒の場合は早めに芽を切ることがあります。またヌメリが出やすいので、水交換は2日目から行ってください。

果樹 は、別紙にあります。

## 野菜

4月中旬頃より果菜類をはじめ野菜の苗が販売されますので植付け準備を行いましょ。

堆肥2kg/m<sup>2</sup>や苦土石灰100g/m<sup>2</sup>を定植2週間前には施しておき、定植7日前に基肥として8-8-8では120～150g/m<sup>2</sup>施し畦立てを行っておきましょう。

マルチを張る場合は降雨後など土が湿った状態で、日中の地温の高い時間帯に張ってください。

### 苗について

苗を購入後すぐに定植すると寒さで苗が傷む事がありますので、軒下など霜の当たらない場所で2～3日慣らしをした後定植しましょう。

### 定植

定植前にはアブラムシなどの予防のため、ジェイエース粒剤など登録のある物を処理し、植え穴や苗に充分灌水した後に植付けします。

定植後2～3日は活着を促すため特に乾燥させない様に注意し、5日頃より徐々に灌水を控える様にしましょう。

### 保温

定植後からゴールデンウィーク明け頃までユーラックなどでトンネルし保温しましょう。

晩霜の恐れがなくなればトンネルを撤去し、支柱立てなど誘引の準備を行います。

### 病害虫

3月下旬頃よりアブラムシの飛来が増加しています。発生初期にはジェイエース水溶性など登録のある農薬を散布しましょう。

### 芽出し

ハト胸状態（1mmまで）に出させます。この時、酸素不足や、35℃以上にならないよう注意してください。育苗器（30℃で約24時間）や風呂の残り湯（始め35℃から2～3日利用します）

### 播種

籾は薄播きにしましょう。密植は苗の徒長・老化・病害虫発生につながります。

播種量（稚苗）	催芽籾	ヒノヒカリ	180g
		コシヒカリ	150g

- ① 育苗箱に床土を入れた後、底から水がしみ出すまで充分灌水します。
- ② 播種後、ダコレード水和剤500倍液を1箱当たり0.5ℓジョロなどで散布。水10ℓにダコレード20gで500倍液が作れます。（20箱分）
- ③ 籾がかくれる程度に覆土後に灌水すると酸欠の原因になります。
- ④ 過湿防止の為箱から水が十分切れてから、育苗器などに入れてください。

## 果 樹

今年、桜の開花が少し遅れましたが、果樹の生育が遅れないように草刈り等して日光が地面にあたり地温が上がるようにしてください。また、芽の出る時は水分があるので天候によって乾くようであれば灌水します。圃場に落ち葉、剪定枝が残っている場合はきれいに処分してください。

冬期～発芽前の防除として石灰硫黄合剤の散布があります。（石灰硫黄合剤は、現在販売規格が18リットル容器になっています。）

落葉後害虫の密度を下げるのには大変効果があります。果樹類で、ハダニ類、サビダニ類に使う場合は20～40倍で使用します。落葉果樹でカイガラムシ類、ハダニ類、縮葉病、越冬害虫に使う場合は7～10倍で使用します。特にものの縮葉病には、7倍で散布すると効果が高いです。散布する時は、樹体にまんべんなくかかる必要があります。強アルカリ性の農薬の為金属がサビやすいので噴霧器は使用后すぐ洗います。

### 柿

4月上旬よりほう芽して、葉が展開してきます。2～5枚展開した頃が、カキクダアザミウマの防除適期になります。また、うどん粉病の防除時期にもなりますのでモスピラン水溶剤とトリフミン水和剤の混合剤を散布します。枝の管理は、不必要な所から出てきた新梢は間引きます。

### いちじく

4月上旬よりほう芽して葉が展開してきます。4月の防除としては、アイノキクイムシ・カミキリムシ類対策でガットサイトS原液を株元から結果母枝まで塗布します。また、食入穴から虫糞が出ている場合は園芸用キンチョールEを注入します。そうか病・アザミウマ類の防除としてトップジンM水和剤とモスピラン水溶剤の混合液を散布します。

芽かぎは、1結果母枝に2～3本に整理することを基本にしますが、展葉2～3枚のころ密生部の新梢・徒長的な新梢・生育が劣る新梢・主枝や亜主枝の背面から直上する新梢はかき取ります。また、樹勢が弱い場合は1回、樹勢が中程度の場合は1～2回、樹勢が強い場合は2～3回に分けて行います。